

## 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）を終えて

我々比叡山高校サッカー部は、令和3年度全国高等学校総合体育大会（輝け君の汗と涙、北信越総体2021）男子サッカー競技に出場し、初の全国大会出場となりました。

昭和33年に創部以来全国大会への出場は一度もありません。滋賀県大会決勝への進出は過去何度か記録しておりますがあと一步のところまで涙をのみ続けてきました。

沢山の悔しい思いをしてきたOBOG、その保護者の方々、また、選手を育て送って頂きました3種チームの皆様、サッカー選手としての土台を作って頂きました4種チームの皆様、生徒の日常を指導して下さっている学校関係者の皆様、毎回応援メッセージをくれるスクール生の皆様、深夜遅くまで相手チームの分析など選手のサポートをしてくれたスタッフ。そして最後まであきらめずに努力を続けた現部員、保護者の皆様。全員が「繋がり」というキーワードのもと一致団結し勝ち取った優勝、全国大会初出場の切符でした。

8月15日（日）1回戦の対戦相手は岡山県代表岡山学芸館高校。中国プリンスリーグでも上位につけるハイレベルな相手に対し、立ち上がりからいつも通りアグレッシブな攻守で相手を押し込み開始早々セットプレーから先制点をあげました。その後は岡山学芸館のテンポの良いパスワークに押し込まれる時間帯が続き、前半半ばに失点。前半を1-1で折り返しました。後半は前線から積極的にボールを奪いにいくことは変えず、トリプルボランチ、ウイングバックのポジショニングに修正をかけ、相手ボランチからのチェンジサイドを封じるポジショニングを意識。中盤でのボール奪取が増え、ショートカウンターから相手ゴールに迫る場面も増えました。めまぐるしく攻守が入れ替わる中、結局前後半で決着がつかず、勝敗はPK戦に委ねられました。決めれば勝利という場面までいきましたが、キックミス。7人目のキックもストップされ、トータルスコア1-1（PK4-5）であえなく敗退となりました。立ち上がりの時間帯で積極的に主導権を握り、ゲームプランの範囲の中で試合を運ぶことに成功しましたが最終的には次のステージに進むことはできませんでした。今大会の経験を活かし、日々のトレーニング強度の向上、会場インからゲーム、会場アウトまでのプランをより洗練させ、冬の全国高校サッカー選手権大会では全国の舞台上で勝ち進んでいけるように成長していきたいと思えます。

最後になりましたが、大会運営関係者の皆様、コロナ禍の運営が大変難しい中、多大なご尽力を頂き大会を開催して頂きましたこと大変感謝申し上げます。また滋賀県サッカー協会をはじめ、滋賀県競技力対策本部、滋賀県高体連サッカー専門部などからも多大なる激励ご支援を賜りましたこと心より感謝申し上げます。皆様の支えに感謝し、さらに日々精進していきたいと思えます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

比叡山高校サッカー部監督  
林 孝紀